Heart Beauty Salon

サトリのココロ

「3.11」から1年を迎えようとしています。
未曾有の大震災の被災地、宮城県石巻市で
復興支援に取り組む僧侶にお話を伺いました。

命あることに日々感謝して生きることです

日蓮宗 法音寺副住職
谷川海明さん

第18回

たにかわ・かいみょう　1984年、宮城県石巻市生まれ。2008年、青山学院大学経営学部卒業。その後、立正大学にて僧階単位を取得し、2010年より法音寺の副住職となる。2011年3月11日の東日本大震災時は発生直後から150人の避難者を受け入れる。その後、法音寺が石巻市指定の避難所となったことをきっかけに「石巻復興支援会」を設立し、代表を務めている。

東日本大震災からもうすぐ1年が経とうとしています。その日、私は家族や客人と寺にいました。長い揺れの後、ラジオなどで「津波がくる」との情報が流れ、高台にある寺に次々と避難者たちが車でやって来ました。そして私は、50人ほどの避難者と津波がくるのを見たのです。2階建ての家が橋にぶつかって流されていく様子、船がぶつかる音……避難者たちも私も、何が起こっているのかわからない、信じられないような光景が目の前に広がっていきました。

震災後10分もしないうちに、電気やガス、水道などのライフラインはすべて断たれました。情報はカーラジオのみ。避難者は150人ほどに増えていました。そんな中で私たちは、目の前の命を救うことだけに集中しようと決めました。悲しむのは後でいい。今は生きることにエネルギーを使わなければ。寺から自転車で5分の距離に住む私の祖父も、この震災で亡くなりました。

壊れて、失って初めて大切さに気づくのです

もともと法音寺は石巻市指定の避難場所になっていたので、普段から米100kg、水1トンを備蓄していました。震災後、石巻市の指定の避難所になりましたが、十分な援助はなし。みんなで協力しながら、自分ができることを考えてやるしかありませんでした。これまであって当たり前と思っていた水や電気がこんなにもありがたいものだったのか、今までは日本の文明に助けられて楽をしていたのだ……日々、食べられるだけでも感謝して生きていかなければ、と気づかされたときでもありました。

震災直後の2～3日は、寺で家族に再会して喜ぶ姿も見られましたが、それ以降は行方不明者の捜索です。ですから、「復興」と言われ始めたときは正直、違和感を覚えました。ライフラインも通っていないのに、復興なんて……と。でも、どこかで気持ちを切り替えて、前を向かなければ。そんな思いから、避難所は百か日を区切りに解散しました。

被災地の産品を買って、食べて、復興支援を！

昨年5月には石巻青年会議所や法音寺関係者らと「石巻復興支援会」を設立しました。支援物資や義援金をムダにしない使い方を、との思いから、子どもたちの進学支援などを行っています。現地だから分かることを生かし、自立を第一優先に考えていく団体です。

全国で応援してくださるみなさんには被災地の特産品を買ったり、観光に来ていただいて復興にご協力いただきたい。ムダにならない支援はまだまだあります。

右・震災時、避難所として使われた60畳の部屋。
余震に備えてテーブルはそのまま使われた。
左・倉庫には常に食料や薪が備蓄してある。

撮影／光川十洋　取材・文／本木頼子　デザイン／黒田志麻